

第3部

国際シンポジウム
アジア・太平洋 海を越えて活躍する
先輩女性たちの魅力
～起業家と企業人の世界から～

結果概要

国際シンポジウム

アジア・太平洋 海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力 ～起業家と企業人の世界から～

(1) 開催日時・場所

日時：2016年11月23日（木・祝）

場所：新宿・京王プラザホテル

(2) 概要

本シンポジウムは、「アジア・太平洋輝く女性の交流事業」の一環として開催され、我が国とアジア・太平洋諸国において活躍している国内外の「架け橋女性」の活躍に焦点を当てたもの。本年度は、起業、企業勤務等における活躍の実態、アジア・太平洋諸国と日本の両方での経験から感じた魅力や今後の活躍における課題等について明らかにするために、32名の「架け橋女性」を招聘し、シンポジウムを開催した。また、架け橋女性の他に、一般参加者52名、関係者約20名も参加し、国際交流を通じてネットワーキングを行った。





プログラム

13:00 ~ 13:05	開会挨拶（ビデオメッセージ） 加藤 勝信（内閣府特命担当大臣（男女共同参画）、女性活躍担当大臣）
13:05 ~ 13:10	本事業について 矢島 洋子（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室長）
13:10 ~ 13:40	基調講演『未来を創る仕事～Entrepreneurship aimed at solving social challenges～』 奥田 浩美 氏（株式会社ウィズグループ 代表取締役）
13:40 ~ 14:40	パネルディスカッション①『女性の多様な働き方について』 パネリスト ・奥田 浩美 氏（株式会社ウィズグループ 代表取締役） ・白木 夏子 氏（株式会社HASUNA 代表） ・濱田 真里 氏（株式会社ネオキャリア海外事業部 編集ディレクター、ABROADERS編集長、なでしこVoice代表） ・文 美月 氏（リトルムーンインターナショナル株式会社 取締役副社長） ・ウィラヌッ・カモンルンワラクン 氏（INFINITUS SERVICES CO., LTD. CEO） モデレーター ・大沢 真知子 氏（日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所 所長）
15:10 ~ 15:35	パネルディスカッション②『女性・起業の実態・課題について』 パネリスト ・久保田 学 氏（一般社団法人留学生支援ネットワーク 事務局長） ・鈴木 有理佳 氏（アジア経済研究所地域研究センター 動向分析研究グループ長代理） モデレーター ・矢島 洋子 氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室長）
15:35 ~ 16:30	グループディスカッション『女性の多様な働き方と可能性』
16:30 ~ 16:35	グループディスカッション総括 大沢 真知子 氏（日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所 所長）
16:35 ~ 16:40	閉会挨拶 武川 恵子（内閣府男女共同参画局長）

加藤 勝信 男女共同参画、女性活躍担当大臣メッセージ

男女共同参画、女性活躍担当大臣の加藤勝信です。

本日は、シンポジウム「アジア・太平洋 海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力」に御参加いただき、誠にありがとうございます。

我が国は、戦後、平和国家として、隣人であるアジア・太平洋諸国と共に歩んでまいりました。国同士の友好・信頼関係は、国民の草の根の交流や経済を通じた人と人とのつながりによって、より強いものとなります。戦後70年を迎え、特に女性の交流を通じてこの歩みを更に進め、友好・信頼関係を深化させるため、今年度からアジア・太平洋諸国と我が国の架け橋となってきた女性の知見・経験を共有し、交流を深める本事業をスタートいたしました。

本日この場にご招待させて頂いた皆様が、これまで特に起業や企業勤務を通じて、我が国の魅力を海外に広めたり、また、海外の視点を我が国に広げたりと、まさにこの地域の友好・信頼関係の構築のための架け橋となっただけでいることに、心より感謝申し上げます。

また、将来架け橋となって活躍していきたいと考えている方々、また、そうした女性たちを支援してくださる方々を含め、多くの皆様方にこうしてお集まりいただけたことを、大変嬉しく思っております。

多様な価値観によってイノベーションが創造される、活力にあふれる社会を実現するためには、女性の活躍が不可欠です。安倍内閣においても、女性の活躍を「一億総活躍社会」の中核として位置づけており、現在、政府全体で取組を進めています。特に、本年4月には女性活躍推進のためのメインエンジンともいえるべき「女性活躍推進法」が完全施行され、我が国は女性活躍の新たなステージへと歩みを進めています。

また、本日のシンポジウムのテーマとなっている「起業」については、自らのライフスタイルに合った柔軟な働き方が実現しやすいこともあり、女性のキャリア形成の面からも注目されているところです。

現在、内閣府では、国境を越えて起業・企業勤務において活躍する女性について、成功の背景や要因等に関する調査・研究事業を進めておりますが、本日のシンポジウムでもその成果の一部を皆様と共有したいと考えています。また、パネルディスカッションやグループディスカッション等においては、架け橋女性の魅力を直に感じて頂き、将来の職業選択のための参考や、未来を展望する起業家との出会いのきっかけとして頂ければと思います。

こうした機会を通じて、将来の架け橋女性、あるいは架け橋女性の良きサポーターが生まれ、個性と能力を生かして輝く女性が増えることにより、我が国、ひいてはアジア・太平洋地域の女性活躍推進のムーブメントが一層広がっていくことを願っております。

最後になりますが、本日のシンポジウムが皆さまにとって実り多きものになりますことを心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

(3) グループディスカッションにおける議論のポイント

グループディスカッションでは、関心事項ごとにテーブルに分かれ、架け橋女性と一般参加者で自由に議論・質疑応答を行った。議論のポイントは以下のとおり。

<起業について>

● 起業家に向くタイプ

→三蔵法師のように「息継ぎをしながら進むリーダー」であって、こぶしを振り上げて全体を引っ張っていくタイプではない。これはハーバードビジネススクールのリンダ・ヒル教授が唱える羊飼型リーダーシップ論や松下幸之助の哲学にも通じるもの。

● 起業家としてのマネジメント能力

→年齢と共に包容力が増してくるものであって、30代では難しい。

● マネジメントとは

→能力に応じてその人に仕事を割り振る、いわば人を管理することであって、勤務時間を管理することではない。

● 起業に際しての困難や課題

→自分にない能力を持った良きパートナーやメンターを見つけることが最大の課題であり成功の秘訣。つてがない状態でのスタートの場合、資金調達や顧客開拓は大きな課題。

● 起業したきっかけ

→企業で会社員として経験した仕事の先での起業ケースと、結婚・出産して子育てをした経験から生まれたアイデアで起業したケースがあった。偶然の出会いや出会った人からのアドバイスが役に立つことがある。

● 小さな事業をうまく継続・展開するコツ

→競争を避けることが大事。競争を避けないと体力のある大企業に勝てない。差別化を図り、価格競争や開発競争に巻き込まれないようにすることが重要。

● 起業した後、挫折することもあると思うが、どのように乗り越えてきたのか

→家族や友人が支えになった。人脈を作ることも重要。成長する人はいろいろな人に可愛がられている。また、失敗は学ぶことができる、成長できる機会だ。成功 or 失敗ではなく、成功 or 学び、と考えると良い。

● 起業して1年位の間は特に苦労が多いと思うが、大変だった点と乗り越えた方法か

→資金面が大変だった。やってから考えるたちであり、自分が働かないと稼げないためがむしゃらに働いた。夢でも仕事をしていた。

● 起業に必要なスキルは何か

→語学はマストではない。怖がらないで興味のあることをやれば良い。日本のビジネスマナーは有効なので、日本企業で3年は働いた方が良い。

● 起業にいたる経緯について

→企業に至る経緯は様々で、サービスに関するアイデアがあって起業した場合、特に日本の会社での生活や展望に不満があって起業した場合、また日本とサービスを展開しようとする国との外交関係や経済関係の良い変化を見て起業を決意した場合などであった。これらのパターンは、それぞれに起業家にとってどれか一つに限定するというわけではなく、様々な経緯や背景の結果、起業にいたった場合が多い。

<キャリアについて>

● 今後のキャリアや人生に対する考え方

→海外での就職や起業に限らず、自分の持っているリソースやインテリジェンスとシナジー効果を生んでくれる場所や仕事を選ぶことが重要。その為にも自分の棚卸（自己理解）が大切。好きか嫌いかで

なく、自分が持っているリソースを過小評価せず一歩引いて冷静に考えること。

- 自分のできることややりたいことのバランスの取り方

→同じことをやっても、場所が違っただけで評価されることもある。ニッチなところがねらい目。苦勞はたくさんあるが、やっているうちに楽しくなってくる。

- 自身のキャリア観

→自身の母親の働き方や就労観が与えた影響が大きく、自然と、結婚や子供を持っても働くのが当たり前と考えるようになっていた。

- 学生時代の経験からの学び

→自発的に勉強することや、自分を律しているような経験の中から学ぶ学生時代の経験も、現在のキャリアや仕事に対する考え方につながっている。

- 転職（キャリアアップ）について

→参加者から、キャリアアップは当たり前のことなのかどうかとの質問があり、今後は日本でも転職が普通になるのではないかと意見や、いろいろと自分の能力を発揮する機会に挑戦したいという言葉があった。

<仕事とプライベートの両立について>

- ワーク・ライフ・バランスについて

→好きなことを仕事にしているので、ワーク・ライフ・バランスをあまり意識せずに働いている。ただ、子供ができた時に、どこまで抑えるかが課題。

- キーワードは柔軟な発想

→仕事でもプライベートでも、働き方や家族の在り方について、「こうあるべき」という型にとらわれない柔軟な発想が重要。

- 結婚・出産・子育て等と仕事との両立

→ワーク・ライフ・シナジー。仕事で得たものは子育てに活かす、子育ての経験を仕事に活かす。

- 仕事と育児の両立を踏まえ、どのように自分の将来のことを考えればいいのか。

→立場が自分を作るということもある。まずはやってみること。そして、ちょっとしたことができるようになることが大事。その積み重ねが自分を成長させる。

- 結婚・出産のタイミングをどう考えているか

→日本より海外の方が、ワークシェアリングが進んでいるので子育てがしやすい。

- 仕事と育児の両立のコツ

→仕事と育児との両立について、不安もあると思うが、自分自身でそれを両立できるよう、サポート環境や周囲をマネジメントする工夫が大切。

<アジアと日本の架け橋について>

- アジアの魅力と日本が失ったもの

→架け橋女性のそれぞれから、アジアの魅力についての意見が述べられたが、アジアの人の温かさや、日本が失ってしまったものに惹かれるとの意見がほとんどだった。

- 支援とビジネスの両立について

→途上国支援に関心を持つ一般参加者が複数名いたこともあり、支援とビジネスの両立、事業の持続可能性、そして支援だけにとどまらない未来につながるサポートの一つとして、人材育成の重要性に言及されるなど、活発な議論が行われた。

- 海外での就業について

→海外や日本が好きだったことや、留学をきっかけとして、海外での就業を考えるようになったケースが多い。

- アジアの国と日本の違いについて

→国民性は似ているところもあるが、習慣が違うことに驚いたという意見や、男女平等の意識が違うといった指摘もあった。

●日本の良さを知る重要性

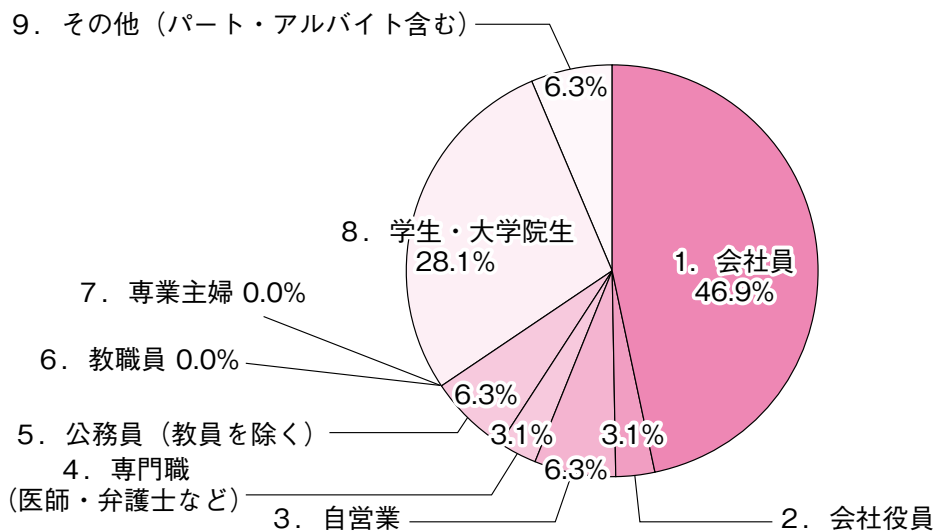
→日本での留学や日本の文化・商品・サービスを通じて、日本の良さを知ったうえで、架け橋女性として活躍することが多い。具体的には、日本の居心地のよさを知り、日本で生活できるように起業・経営をしている場合や日本の文化やサービスにヒントを得て、事業を展開している場合などがある。



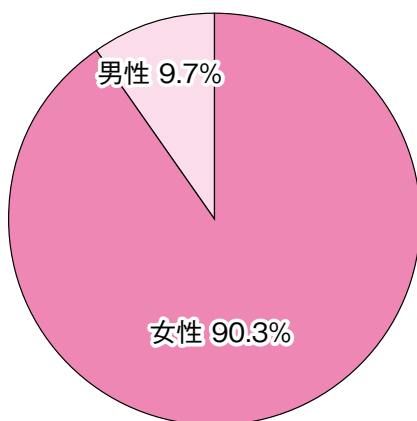
(4) 一般参加者に対するアンケート結果

当日の一般参加者は52名のうち、アンケート回答者は 31名（回答率60%）

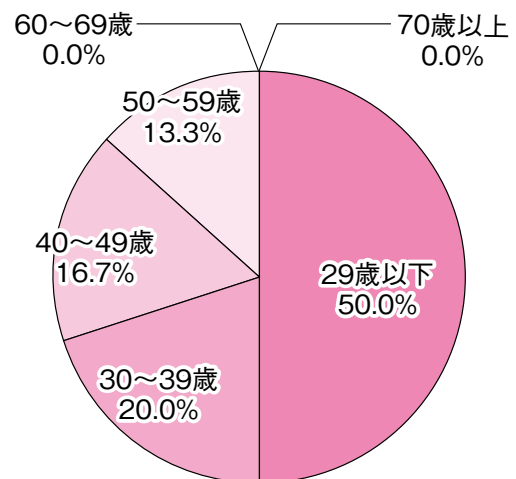
1. 職業について



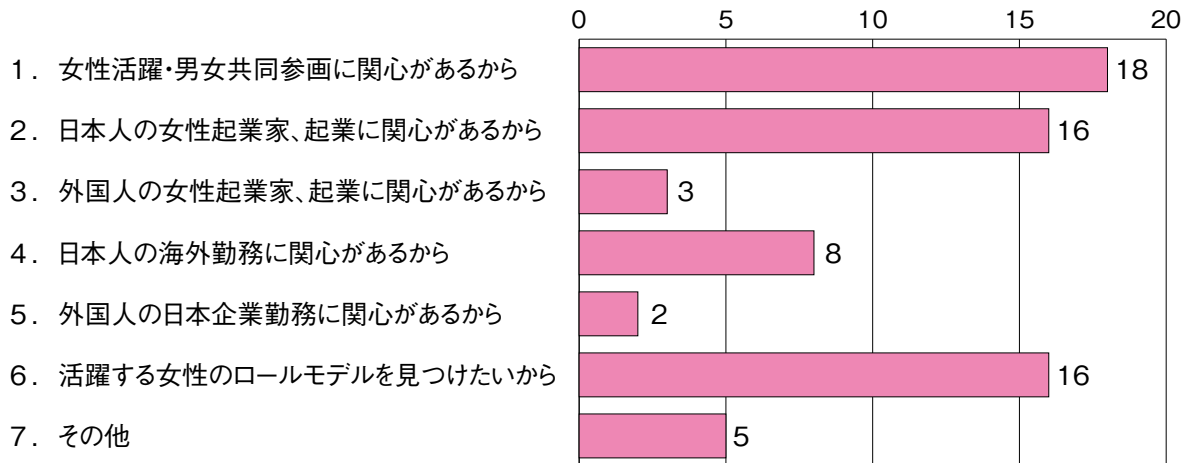
2. 性別



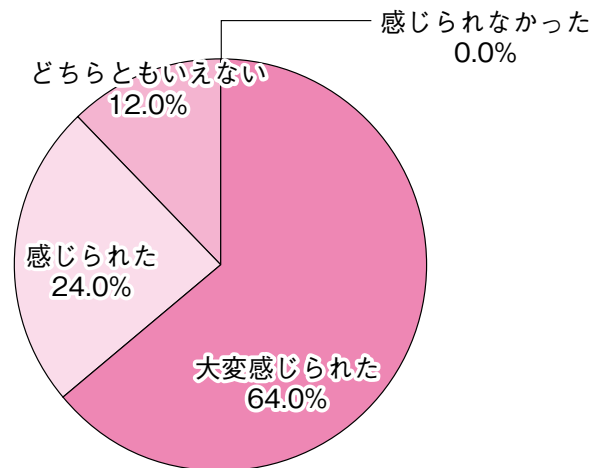
3. 年齢



4. シンポジウムの参加目的（複数選択）



5. 基調講演者、パネリスト、招聘者として参加された女性起業家・企業人はロールモデルになりうると感じられたか



6. 報告書に盛り込んだ方がよい内容

